■吉川英治 小説家。「鳴門秘帖」で大衆文学の草創期を飾り、「新平家物語」「私本太平記」で国民文学を完成させた。

よしかわえいじ

大本教・・・1892＝ 神奈川県久良岐郡中村町(横浜市)で生まれる。

日清戦争始・1894＝2歳：

父は早くから横浜で牧場経営をはじめ、いくつかの事業に手を染めるがいずれも失敗し、訴訟事件で敗けたこともあって家は傾き、浮沈のはげしい生活を体験、

田中正造直訴1901＝9歳：

日比谷公園・1903＝11歳：小学校を中退して各種の職業を転々とする少・青年期をすごした。

日露戦争終・1905＝13歳：

満鉄発足・・・1906＝14歳：_地元紙の俳句欄に投稿して常連となるほか、各誌に俳句や川柳を盛んに投稿。

韓国併合・・・1910＝18歳：

横浜船渠の船具工の時転落事故で負傷し、それを機会に志を懐いて上京。

大逆事件判決1911＝19歳：

金属象嵌師の徒弟などをしながら、しだいに文学の世界に接近、雉子郎の号で川柳家となり、

明治天皇没・1912＝20歳：

大正政変・・・1913＝21歳：

_ {大正川柳}に迎えられ、編集幹事となる。

第一次大戦始1914＝22歳：

*三越百貨店の募集で川柳が1等。{講談倶楽部}の懸賞に処女作「江の島物語」を投稿、第1席となった。

本格政党内閣1918＝26歳：

父が死去。_「古川柳隅田川考」を発表。

ベルリン条約・1919＝27歳：

原敬首相暗殺1921＝29歳：

母が死去。_「でこぼこ花瓶」「馬に狐を乗せ物語」「縄帯平八」が次々入選して、毎夕新聞社に入り、

水平社結成・1922＝30歳：

社命により「親鸞記」を無署名で連載(翌年処女出版)。

関東大震災・1923＝31歳：

女流を探訪して「女人国記」を連載。やすと結婚。_関東大震災で辞し、信州の温泉に籠り執筆活動に入る。

護憲三派圧勝1924＝32歳：

「剣魔俠菩薩」。_講談社系諸雑誌にいくつもの筆名で作品を発表。

治安維持法・1925＝33歳：

「神州天馬俠」。_ {キング}の創刊号から連載した「剣難女難」で注目され、以後、吉川英治を名乗る。

円本時代始・1926＝34歳：

「神変麿香猫」。*「鳴門秘帖」の連載で時代小説家の地位を確保、大衆文学の草創期を飾った。

金融恐慌・・・1927＝35歳：

「万花地獄」「竜虎八天狗」「江戸三国志」を連載。妻との間に溝が生じ、園子を養女とする。

共産党事件・1928＝36歳：

_「鳴門秘帖」が刊行されてベストセラーになり、印税で家を新築。

海軍軍縮条約1930＝38歳：

「かんかん虫は唄ふ」。_家庭不和で家出。作品は旅先から書いて送る。この頃から新たな模索に入る。

満州事変・・・1931＝39歳：

「吉川英治全集」刊行開始。

帝人疑獄事件1934＝42歳：

「松のや露八」「親鸞」を連載。

芥川直木賞始1935＝43歳：

機関誌「青年太陽」を発刊。朝日新聞に「宮本武蔵」を連載し、国民文学へ向かう可能性を示す。青年文化協会を設立し、池戸文子を知る。

日中戦争始・1937＝45歳：

やすとの離婚が成立し、文子と結婚。日中事変が起り、毎日新聞特派員として戦線視察。

健保+総動員 1938＝46歳：

_諸作家とペン部隊で南京、漢口に従軍、中国大陸の歴史の悠久さとうたれる。

第二次大戦始1939＝47歳：

読売新聞に「新書太閤記」、地方紙に「三国志」を連載。

日米開戦・・・1941＝49歳：

敗戦・・・1945＝53歳：

_学徒動員中の養女園子が死去、終戦後2年筆を断つ。

新憲法公布・1946＝54歳：

新憲法施行・1947＝55歳：

_短編「人間山水図巻」で活動再開。

極東裁判決・1948＝56歳：

「高山右近」連載。

朝鮮戦争始・1950＝58歳：

*週刊朝日に「新・平家物語」の連載開始。

独立回復・・・1951＝59歳：

TV放送始・・・1953＝61歳：

_「新・平家物語」で菊池寛賞。

55年体制始・1955＝63歳：

「忘れ残りの記」を連載。_「新・平家物語」で朝日賞。

なべ底不況・1957＝65歳：

_「新・平家物語」が完結。

インスタントラーメン・1958＝66歳：

毎日新聞に「私本太平記」、{日本}に「新・水滸伝」連載開始。

安保闘争・・・1960＝68歳：

_文化勲章受章。

タイ病始・1961＝69歳：

*「私本太平記」を完結。健康悪化して「新・水滸伝」は中断。

全国総合計画1962＝70歳：

_「私本太平記」で毎日芸術大賞。肺癌により没した。